

常滑市都市計画マスタープラン策定委員会

第1回議事録（概要）

開催日時：平成30年11月7日（水）10時00分～12時00分

開催場所：市役所5階第6会議室

次第

- 1 市長あいさつ
- 2 出席者紹介
- 3 委嘱状交付
- 4 委員長の選任
- 5 議題
 - ① 策定方針について（資料1）
 - ② 現行計画の進捗状況及び評価について（資料2）
 - ③ 社会情勢の変化の整理及び現況特性の把握について（資料3）
 - ④ 課題の整理（資料4）

議事内容

■課題の整理について

- ・（委員）市街化調整区域で開発が進んでいるとのことであったが、実情は、明らかに農業振興地域を外してもいいのではという場所で開発がなされている。農業振興地域の見直しをはかる時期にきているのではないだろうか。
- ・（事務局）県と市の農政部局とも協議が必要であり、今後も共有しながら協議を進めていく。
- ・（委員）西知多道路周辺で農地を持っている人たちは、不安で仕方がない。不安を払拭するように説明を行っていかないと、道路計画は進んでいかない。
- ・（事務局）本日の夜も説明会の開催を予定されている。当然ながら地元の人たちの意見を取り入れていかないと計画は進んでいかないため、事業者と地権者とで情報共有して進めていくものと考えている。
- ・（委員）武豊北ICができることで、南部地域の土地利用がどのようになっていくかという意見も出ているの。今後検討してもらいたい。
- ・（事務局）計画されているICは、市内の都市計画道路に接続されており、今回のマスタープランのなかで、沿道の土地利用をどうすべきだということを課題としてとりあげ、しっかり審

議をしていただきたい。

- ・(委員長) 土地活用を進めていくと農地を侵食するので、国策で農業を守っていくという位置づけで、農業振興地域を設けている。地元の方と事業者の方と議論して合意を図っていかなければならない。
- ・(委員) 土地利用の理念として、都市と農地の共存は大原則なので、新たな土地利用を図る際も農地をどうするか、しっかりと議論して進めている。西知多道路においても、県の事業でもあり、常滑市としっかり連携して、まちづくりを考えながら協力して進めていきたいと考えている。
- ・(委員) 西知多道路や新設される I C の周辺においては、用途地域の見直しが必要ではないだろうか。
- ・(委員) 南部地域は名鉄知多新線を利用している。以前は新駅設置の用地を確保したりしていたので、なかなか実現は難しいかもしれないが、マスタープランのなかで触れていただけるとありがたい。
- ・(委員長) 鉄道に関しては、県が知多半島全体の都市計画区域マスタープランを作成しているので、カバーできると思う。西知多道路の I C 周辺や沿道の土地利用については、これから市の財産にもなるべきものなので、乱雑な開発になるのではなく、しっかりとした土地利用をされるべきで、今後議論していただきたい。
- ・(委員) 前山に住んでいるが、西知多道路の説明会に出たことはない。環境が豊かな所がどのように変わってしまうのか、小中学生の通学路にもなっており、安全性はどのように担保されるのか、気になっている。
- ・(事務局) 前山校区あたりは、道路は盛土構造で造られる予定であり、自動車専用道路なので I C を介してでないと道路に進入はできない。よって、どこからでも既存集落へ車が入ってくることは想定しにくい。また、通学路においても要所毎にボックスを設置して横断ができるようになるので、安全に交差できることを愛知県としては想定していると聞いている。
- ・(委員長) おおまかな計画はそうであるが、細かくみれば、通学路の変更等が生じると思うので、その辺りの意見を地元から出していただいて計画に反映できれば、地元のみなさんも安心してもらえると思うので、是非説明会の場で意見を出してもらえれば。
- ・(委員) いくつかの前提条件のなかで、単身赴任の方や観光客といった住民票をおいてないような人の数も計画づくりの際は、想定をすべきではないか。国際観光都市にしていくといった流れもある。また、渋滞につながる交通量の問題等にも関わるように思う。

- ・(委員) 常滑市の通学路の点検をこれまで行ってきた。その中で、問題になる道路は狭隘な生活道路を自動車が通りぬける通過交通問題である。結局は道路網全体の問題で、幹線道路の整備が不十分だと生活道路に自動車が入ってくるとことになる。市内の幹線道路と生活道路のレベルが分かる図を作成して、位置づけを確認する必要がある。また、どこは渋滞しているのか、混雑度や交通量を示された資料があると、どこが改善すべきかの議論ができると思う。
また、空き家についても狭隘道路に数多くあり、防災上も問題がある。そういった密集市街地を新しく整備していけば、空き家にも人が入ってくると思う。
- ・(委員) 福祉の観点から、高齢者が安心して出歩けない実情がある。歩道に人がいない商店はつぶれてしまう。ゆっくりと歩ける歩道をしっかりと整備してあげて、安心・安全を確保してあげると、将来にわたって、まちを大きくはしなくても維持していくという役割として、最低限整備できると良い。
- ・(委員長) 住民のみなさんが土地の買収に協力してもらわなければいけない。結局のところ、公共事業というのは地元の皆さんとの話し合いで進捗するので、是非こういうことを議論するところから始めてもらいたい。いい解決案を出していただけると良い。
- ・(委員) 資料を拝見すると、常滑市らしさがない。中部国際空港との関係性があまりにも記載がないし、ゲートウェイとしての課題が示されていない。また、コンパクト+ネットワークとあるが、市民病院が移転し、市役所も移転する中で、それをふまえた視点をもってまちづくりを考えなければならない。防災の観点で、海沿いの狭隘道路が多い市街地と、ハザードマップとの重ね合わせ等を行ったうえで、防災上の問題点を整理していただきたい。
- ・(委員長) 常滑特有の問題をご指摘いただいた。国際観光都市ということで、空港に国際展示場もできる。空港と産業をリンクさせて、土地利用の計画に産業面を取り入れて議論できれば。雇用の場ができなければ次の世代の若い人が来ない。
また、駅前が重要だが、密集市街地でもあり津波の浸水区域にもなっているので、そういったことを課題としてとらえるべきである。
また、病院や市役所が移転するなかで、鉄道だけではなく、バス幹線を意識しながらネットワークを考えるべきである。交通と土地利用はセットであり、鉄道+バス輸送もセットで考えてもらいたい。
- ・(委員) 常滑市の公共交通の計画があれば示してほしいが。
- ・(オブザーバー) 4年前に市民と交通事業者に入ってもらって会議を開催し、課題の整理を行ったものは報告書としてある。
- ・(オブザーバー) 財政をよくするには、歳出を減らすか、歳入を増やすかの2つしか手段はない。その中で歳出を減らす策は限りがある。歳入を増やす策で一番効果的なのは、企業誘致で

ある。誘致に伴う税金で新たな収入を得るのが、財政の健全化につながっていくと思う。現在も企業誘致は進めているが、なかなか場所がない。りんくう町はあいているが、土地代が高く投資ができない状態にある。市の東部の未利用地などに企業が進出できやすくなるような土地利用が図れたらと思う。

- ・(委員) 今まで常滑市では、税制優遇をしてりんくう町の企業誘致を図ってきたと思うが、そろそろ10年経ってはいるが、今からその税制収入を見越しても、まだ足りないのか。
- ・(オブザーバー) 仕組みとして、税はもらっている。もらった税に対して優遇しているのも、その分歳出している。その払う分がそろそろ無くなっていくのかなという時期にきている。
- ・(オブザーバー) 防災について取り上げると、東日本大震災以降、市民の防災への意識もだいぶ高まっており、先日の台風の時の避難勧告にも、非常に多くの市民が反応して避難していた。今回のマスタープランには、新しい情報を盛り込んで、やれることやれないことを確認していかなければと思っている。
また、公共交通で申し上げると、高齢者は今後、公共交通に頼らないと生活していけないのは明らかなので、今後の常滑市の公共交通の在り方について、いろんな事例も踏まえて検討していけたらと思う。
- ・(委員長) 従来の方方法にとらわれず、斬新な方法を検討してもらいたい。過疎バスが、誰もお客を乗せないで走っているような税金の無駄遣いにならないように。
- ・(オブザーバー) まち・ひと・しごと創生総合戦略のなかで、42年後2060年に約59,000人の人口を見込んでいる。定住人口を維持していくには、若い世代、子育てを取り込んでいく必要があり、それを見据えたまちづくりを考えていかなければならない。そして、常滑市に観光として訪れてくれる交流人口についても、検討に含めていかなければと思っている。
- ・(委員長) 総合計画との関連についての話題も出ましたので、連携をとって議論でればと思います。